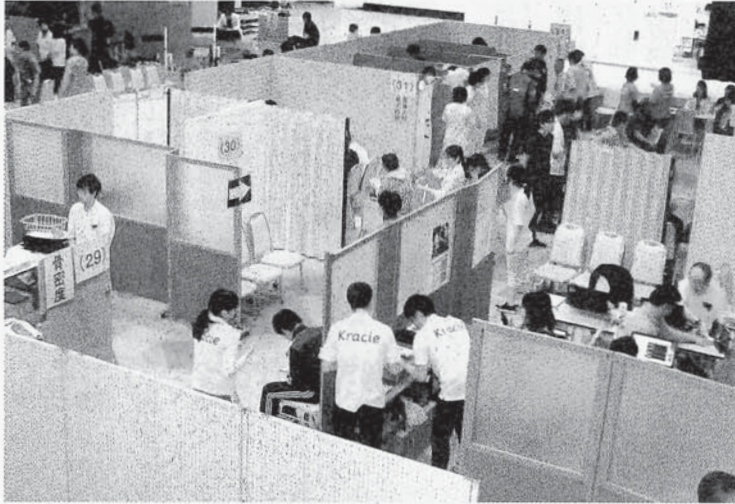


# 弘大COI 最高賞選出

## イノベーションネットアワード2020で文科大臣賞



### 「寿命革命」プロジェクト

## 取り組み高評価

地域産業の振興や活性化に優れた成果を上げたとして、弘前大学COI研究推進機構（中路重之拠点長）の取り組みが8日、「イノベーションネットアワード2020」の最高賞「文科科学大臣賞」に選ばれた。弘大COIは2019年3月に先導的なオープンイノベーションモデルを評価する日本オープンイノベーション大賞、同年11月に日本が目指すべき社会に向けた取り組みを表彰するプラチナ大賞で、ともに最高賞に選ばれるなど躍進を続けている。（成田真由美）

イノベーションネットアワードは全国イノベーション推進機関ネットワークなどが主催し、今回で9回目。地域の中小企業による新事業や、新産業創出などを促進し、地域産業の振興、活性化に優れた成果を上げている地域産業支援プログラムを表彰している。弘大COIは、健康ビッグデータをハブに産学官金民の強固な連携で新産業創出を目指す弘前大学「寿命革命」プロジェクトが高く評価された。

健康ビッグデータを核に産学官金民の連携で躍進する弘大COI（写真は2018年の岩木健康増進プロジェクト）

弘大COIは13年、文部科学省から革新的イノベーション創出プログラムの採択を受け、毎年1000人規模の住民健診を行う岩木健康増進プロジェクトの健康ビッグデータを核に研究を推進。新たな健診モデルの開発のほか、認知症や生活習慣病の早期発見や予防方法の創出などで成果を上げて

健康寿命延伸に向けて、産学官金民が連携する姿勢も大きな特徴で、健康ビッグデータを軸に、大手企業が次々と参画するだけでなく、マルマンコンピュータサービス（弘前市）など地元企業による商品開発なども進み、その成果は全国に広がっている。

政府系主要イノベーション関連アワードの受賞が続き、弘大COIの村下公一教授は「弘前の地を中心に行われている取り組みがさまざまな面からお墨付きを頂いたことを大変うれしく思う」と述べた。中路拠点長は今回の受賞について「短命県返上を大きなテーマに、産学官金民

を巻き込んで目的に向かう姿はまさにオープンイノベーション。これを全国に先駆けて実現するための励み、勇気につながる」と喜びを語った。表彰式は29日に東京都内で行われる予定。